



サンマ

北太平洋

主な漁業と漁期

棒受網: 8~12月

定置網: 10月~1月

生態

落語「目黒のさんま」、佐藤春夫の詩「秋刀魚の歌」でも有名な大衆魚で、秋の味覚の代表格です。

●分布・回遊

日本海・オホーツク海、北太平洋の亜熱帯水域から亜寒帯水域にかけて広く分布します。5~8月に北上して、夏季に黒潮親潮移行域北部・亜寒帯水域で索餌し、8月中旬以降に南下して、冬季に産卵のため移行域・黒潮前線域・亜熱帯域に達します(右図)。

●産卵期・産卵場

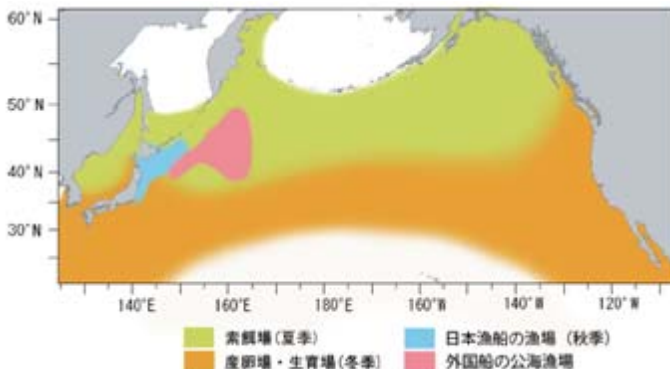
産卵期は長く、9月から翌年6月にわたります。主な産卵海域は、秋季及び春季が黒潮・親潮移行域、冬季が黒潮~黒潮続流域と考えられています(右図)。

●成長・成熟

寿命は約2年で、一般的な漁獲サイズである体長30cmに達するまで約1年かかります。0歳で一部が成熟し、1歳ですべて成熟します。

●食性

カイアシ類の幼生やオキアミなど、動物プランクトンを捕食します。

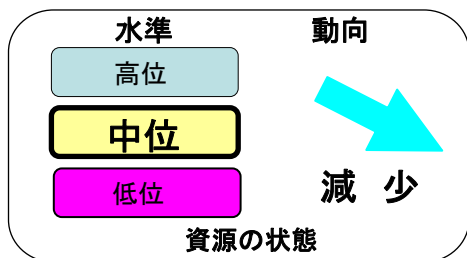


サンマの分布域(索餌場と産卵・生育場)と日本漁船及び公海における外国漁船の主漁場位置

(国研)水産研究・教育機構Webサイトより引用

漁業・資源動向

【資源】

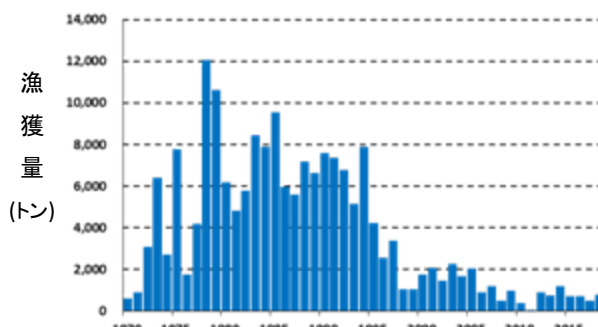


- 1 北太平洋のサンマは高度回遊性魚類として北太平洋漁業委員会(NPFC)による資源管理の対象になっています。
- 2 2019年には2020年のサンマの分布域全体(NPFC条約水域(北太平洋公海)及び隣接する200海里水域)の漁獲量上限を55.6万トンとした上で、NPFC条約水域でのサンマの総漁獲可能量(TAC)を33万トンに制限することが新たな保存管理措置として採択されました。
- 3 我が国が行ってきた資源状態の判断方法と過去のサンマの判断基準に従うと、資源水準は中位、資源動向は減少と判断されています。

《国が公表している「資源の現状」へのリンクはこちら》
要約 http://kokushi.fra.go.jp/R01/R01_76_SAP.html
詳細 http://kokushi.fra.go.jp/R01/R01_76S_SAP.html

【漁業】

- 1 秋~冬に南下するサンマを狙う棒受網漁業の漁場は、8月に北海道東部沖~千島列島沖に、9月下旬~10月上旬に三陸沖まで南下し、11~12月には常磐~房総沖に達します。この海域に出漁する静岡県の棒受網船は最盛期には50~100隻程度ありましたが、近年は1~2隻です。2008~2018年の漁獲量は25~1,212トン(2018年は776トン)です。
- 2 伊豆東岸の定置網には伊豆半島まで南下回遊してきたサンマが秋から冬にまとまって入網します。年間漁獲量は90トン程度です。
- 3 静岡県内の漁獲量は1996年以降減少していますが、これは主に棒受網漁船の減少によるものと考えられます。



静岡県におけるサンマの年別漁獲量(漁業・養殖業生産統計年報より作成)

担当者の一言:伊豆地方では南下してきたサンマを使った丸干しやサンマ寿司が名物です。

問合せ先

静岡県水産・海洋技術研究所資源海洋科 054-627-1817